

岩内港 振

岩内町建設経済部建設課

〒045-8555 岩内郡岩内町字高台134番地1

☎0135-62-1011(代)



1. 概況

岩内港は、日本海に面する北海道の西海岸部中央の岩内町に位置し、北は積丹半島、南の後背地には、近年、特に外国人観光客で賑わう国際的な大規模リゾート地であるニセコエリアがあり、これらが広域な地域経済圏を形成しており、その中で唯一の港湾として重要な役割を果たしている。

本港の歴史は古く、1850年に江戸幕府が近海の測量を行ったことから始まったとされており、鯨漁の基地として、また積丹半島にある泊村の茅沼炭鉱から産出された石炭の積み出し港として発展してきた。

その後、海難防止と漁業基地としての港づくりの要望が高まり、明治40年から町営による西防波堤の整備を開始。以後は、大正から昭和にかけての北海道拓殖計画による修築改修が行われ、ほぼ現在の本港地区の外郭施設の形ができあがった。

戦後は、港湾などのインフラ整備も積極的に行われ、後背地の産業発展に合わせて日本海西部の流通拠点として、将来を期待されることとなり、商港としての整備が進められ、昭和28年には地方港湾の指定を受け、ふ頭、防波堤の整備に着手する。昭和29年、町全体の8割を超える家屋が焼失するという岩内大火が発生するが、町の存亡の危機を乗り越え復興を果たす。

既に、この時期、基幹産業である漁業は低迷が続いていたが、たらこ、数の子、身欠き鯨などの製品加工に取り組んでおり、昭和60年には外国産鯨の輸入のため地方港湾として全国初の保税上屋の指定を受ける。

昭和39年には中央ふ頭が完成し、以降、高度成長時代を背景に貨物船の入港が頻繁となり、物流港として注目され、さらに大きな飛躍を目指し、新たな港湾整備計画が進められる。

昭和58年からは、東側の海浜地を埋め立て、新港地区の整備に着手し、東ふ頭岸壁-8.0m及び-7.5m、東外防波堤、あわせて臨海部工業団地を整備する。これは、かねてから地域の発展をめざして、岩内商工会議所が先頭となって行ったフェリー誘致活動の結果により、平成2年から新潟県直江津港と本港を結ぶ長距離フェリー就航が決定したことによるものである。

時を同じく、町は、岩内港を中心とした「マリントウンプロジェクト」計画を策定、①漁業・水産加工業の振興②観光・

レクリエーション基地の整備③背後地と一帯となった港湾整備を推進することとなり、商港としての岩内港の新たな一歩を踏み出すこととなる。

その後、町民や近隣町村など関係者の期待と夢が寄せられたフェリー航路は、経済不況のため廃止となり、町の課題として、産業活性化や地域特性を活かしたまちづくりのため、折しも課題となっていた市町村合併と相まって、生き残りをかけた独自の施策が必要となり、観光振興、企業誘致など、既存の産業との相乗効果を狙いながら、地域産業に、より強固な基盤確立を旨とすることとなった。

この時期、岩内港を軸とした「マリントウンプロジェクト」計画における観光開発として、いわないマリパーク、道の駅いわない、そして小説「生まれ出る悩み」のモデルとなった地元出身の画家・木田金次郎の美術館がオープンする。

また、平成12年には特定地域振興重要港湾の指定を受け、地域活性化を図るうえで港に対する大きな期待が寄せられるなか、平成13年から、岩内港を拠点に岩内湾深層水取水施設等整備事業に着手する。

平成16年に臨港地区内に深層水の拠点施設「地場産業サポートセンター」をオープンし、分水を開始。産業活動や企業誘致活動、さらには港湾利用にも寄与する地域資源となっている。これまでの深層水の特性のPRが実り、ここ数年は、水産物の輸送への利用が拡大している。

近年の岩内港における取扱貨物量は、ニセコエリアのリゾート開発、北海道横断自動車道の整備、北海道新幹線の整備が進められていることから、建設資材等の移入が増加しているとともに、令和7年8月からは、新幹線のレールの荷揚げが始まっている。

また、再生エネ海域利用法の成立後は、洋上風力発電による港湾利用の可能性など経済面でのメリットに着目し、岩宇・南後志地区沖への誘致を進めている。令和2年2月には、促進区域の指定に向けて、本町を含む周辺7町村が協力し、北海道に情報提供書を提出しており、その後、7月に「一定の準備段階に進んでいる区域」とされ、令和4年5月、海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾の指定に係る意向調査へ回答、令和5年5月に「有望な区域」に選定され、10月には着床式が「有望な区域」、浮体式が「一定の準備段階に進んでいる区域」に選別されている。法定協議会についても第1回が令和6年7月29日に、第2回が令和6年11月28日に開催され、「促進区域」指定に向け着実に進んでいて、今後の港湾利

用が期待される場所である。

岩内港を取り巻く環境も、今後10年間で北海道横断自動車道や北海道新幹線の整備が進み、人と物の流れが大きく変わることが予想される。

さらに、令和元年にはクルーズ客船「ぱっしふいっくびいなす」が入港し、多くの観光客が訪れ、観光面での岩内港利用の可能性が広がったものと考えている。

最後に、岩内港は、クルーズ客船の誘致、洋上風力発電などの新たな可能性への挑戦、観光開発、企業誘致など、さまざまな発展に寄与するという目標に向かって進んでいくために、令和7年度中に施設計画と振興計画を2本柱とした岩内マリンプランを策定し、老朽化した防波堤、岸壁、物揚場の改良など防災・減災対策を計画的に進めるとともに、港湾機能のより一層の充実強化を図り、地域の発展を旨とするものである。

2. 港勢

入港船舶

トン数別 種別	合計		500GT 総トン以上		5GT 総トン以上 500GT 総トン未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
外航商船						
内航商船	82	58,025	75	54,532	7	3,493
自航						
その他	1,436	106,405				
合計	1,518	164,430	75	54,532	7	3,493

最大入港船舶のトン数 総トン（喫水 m）

海上出入貨物

項目	合計	
	トン	%
輸出		
輸入		
計		
移出	2,540	100.0
移入	163,637	100.0
計	166,177	100.0
合計	166,177	100.0

3. 港湾施設

区分 埠頭名	けい船施設					荷さばき施設					主な 取扱貨物
	パース名	前面 水深 (m)	延長 (m)	最大 けい船 能力 (DWT)	船 席 数	荷役機械			上屋		
						機械名	揚力 (t)	基数	棟 数	使用 面積 (㎡)	
漁業埠頭	漁業埠頭岸壁 (-5.0m)	5.0	225	1,000	3						石材
中央埠頭	中央埠頭第二岸壁	7.5	130	5,000	1						砂、砂利、石灰石
新港東埠頭	新港東埠頭岸壁 -8.0m	8.0	266	7,000	1						砂、砂利、石灰石
	新港東埠頭岸壁 -7.5m	7.5	261	5,000	2						

保管施設		
区分	棟数	面積・容量
野積場	-	-
普通倉庫		
1~3類倉庫	-	-
危険品倉庫	-	-
野積倉庫	-	-
貯蔵倉庫(サイロ)	-	-
冷蔵倉庫	-	-
水面倉庫(貯木場)	-	-

泊地		
区分	水深(m)	面積(㎡)
錨泊地	8.0	224,400
はしけ溜	-	-
木材投下泊地	-	-
危険物泊地	-	-

港湾関連施設	
名称	延床面積(㎡)
-	-

臨港交通施設	
名称	総延長(m)
臨港道路	9,422.94
新交通・鉄道	-
ヘリポート	-

4. コンテナターミナルの概要

該当なし

5. マリーナ

該当なし

6. 緑地

名称	区分	面積(㎡) (植栽率-%)	水際線延長 (m)	緑地タイプ	竣工年度	施設	
						利用施設	附属施設
新港地区緑地		14,400	-	親水緑地	平成16年度	四阿、水飲み場	便所、駐車場

7. 基地港湾

該当なし

8. ポートサービス

該当なし

9. 関係出先官公署

該当なし

岩内港

